



【 現行 】

安心度UP

戦略1

安全・安心な暮らしの実現

【目指すべき将来の姿】

- 南海トラフ巨大地震や大規模災害に対し、地域住民が正しい防災知識を持ち、平時から支え合う「共助」が地域に根付き、安心して暮らせる持続可能なまちづくりが着実に進められています。
- 大規模災害に備え、社会基盤の整備が着実に進められ、県民の安全・安心が確保されています。
- 鳥インフルエンザの発生など、食料の安定供給や安全の確保に影響が生じるおそれがある緊急事態に備え、影響を最小限とするための体制が構築されています。

【現状と課題】

- 急激な少子高齢化・過疎化により、地域防災力が低下していることから、担い手の育成に加え住民が主体的に防災減災対策に取り組む「自助・共助」の強化と「公助」の体制強化が不可欠です。
- 気候変動に伴う異常気象によりこれまで経験したことのない大水害が「常態化・広域化」していることから、県民の「逃げ遅れゼロ」を実現するため、防災情報の充実と周知が不可欠です。
- 切迫する南海トラフ巨大地震や激甚化・頻発化する気象災害などから県民を守るため、道路、河川・海岸、砂防、港湾、公園などの社会基盤整備の推進による「強靱な県土づくり」が不可欠です。
- 今後、建設から50年以上経過する道路、河川、砂防、港湾などのインフラの割合が加速度的に増加することが予想され、将来にかかる維持管理・更新費用を抑制していく必要があります。
- 家畜伝染病発生等に備え、地域の状況等に応じて、迅速かつ効果的に対応できるよう、随時、家畜防疫体制の見直しと強化を行う必要があります。

【成果指標】

南部圏域における防災士の資格取得者数（累計）  
（出典：徳島県調べ）

2022年度実績	2028年度目標
831人	1,200人
<small>指標の説明</small> 各地域に防災知識のある住民を増やし、地域防災力の向上を図るため、この指標を選定	<small>設定の考え方／得られる成果</small> 避難所1か所あたり4人程度を目標とし、迅速な避難と円滑な避難所運営に寄与

南部圏域における道路の整備状況

■ 徳島南部自動車道（阿南IC～小松島南IC）	
2022年度実績	2025年度目標
工事推進中	完成
■ 日和佐小野線（恵比須浜工区）	
2022年度実績	2027年度目標
工事推進中	完成



【 改正案 】

安心度UP

戦略1

安全・安心な暮らしの実現

【目指すべき将来の姿】

- 南海トラフ巨大地震や大規模災害に対し、地域住民が正しい防災知識を持ち、平時から支え合う「共助」が地域に根付き、安心して暮らせる持続可能なまちづくりが着実に進められています。
- 大規模災害に備え、社会基盤の整備が着実に進められ、県民の安全・安心が確保されています。
- 鳥インフルエンザの発生など、食料の安定供給や安全の確保に影響が生じるおそれがある緊急事態に備え、影響を最小限とするための体制が構築されています。

【現状と課題】

- 急激な少子高齢化・過疎化により、地域防災力が低下していることから、担い手の育成に加え住民が主体的に防災減災対策に取り組む「自助・共助」の強化と「公助」の体制強化が不可欠です。
- 気候変動に伴う異常気象によりこれまで経験したことのない大水害が「常態化・広域化」していることから、県民の「逃げ遅れゼロ」を実現するため、防災情報の充実と周知が不可欠です。
- 切迫する南海トラフ巨大地震や激甚化・頻発化する気象災害などから県民を守るため、道路、河川・海岸、砂防、港湾、公園などの社会基盤整備の推進による「強靱な県土づくり」が不可欠です。
- 今後、建設から50年以上経過する道路、河川、砂防、港湾などのインフラの割合が加速度的に増加することが予想され、将来にかかる維持管理・更新費用を抑制していく必要があります。
- 家畜伝染病発生等に備え、地域の状況等に応じて、迅速かつ効果的に対応できるよう、随時、家畜防疫体制の見直しと強化を行う必要があります。

【成果指標】

南部圏域における防災士の資格取得者数（累計）  
（出典：徳島県調べ）

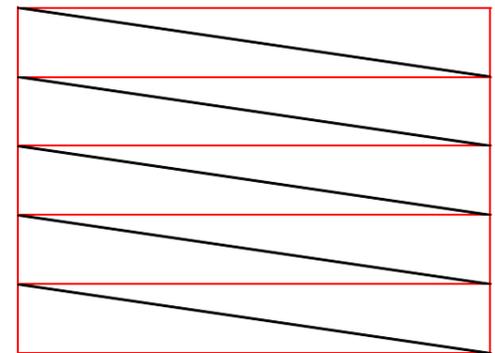
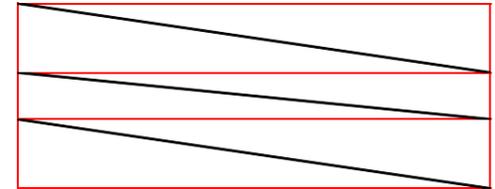
2022年度実績	2028年度目標
831人	1,200人
<small>指標の説明</small> 各地域に防災知識のある住民を増やし、地域防災力の向上を図るため、この指標を選定	<small>設定の考え方／得られる成果</small> 避難所1か所あたり4人程度を目標とし、迅速な避難と円滑な避難所運営に寄与

南部圏域における道路の整備状況

■ 徳島南部自動車道（阿南IC～小松島南IC）	
2022年度実績	2025年度目標
工事推進中	完成
■ 日和佐小野線（恵比須浜工区）	
2022年度実績	2027年度目標
工事推進中	完成

【資料1】

見直しの理由や概要



【 現行 】



【施策の方向性】

(1) 危機管理体制の充実・強化

- 南部圏域の地域防災力の強化を図るため、防災士の資格取得支援に加え、人材の掘り起こしや知識・技能の向上・活用を図るとともに、行政はもとより、防災人材のネットワークを強化します。
- 地震や津波で甚大な被害が想定される南部圏域において、防災拠点をはじめ社会基盤・施設の整備を推進するとともに、実効性の高い広域避難体制の構築を図ります。
- 要配慮者一人ひとりが確実に避難できる避難支援体制づくりを目指し、市町における個別避難計画※の作成や、福祉避難所※の機能強化に向け、設備・体制の整備を支援します。
- 大規模災害発生時に刻々と変化する被災者や避難者の状況を把握し、医療救護活動が的確に実施できるよう、医療機関と災害時コーディネーター間のさらなる連携強化と訓練を通じた対応能力の向上を図ります。
- 山地災害から生命・財産を守るため、山地災害危険地区の定期的な調査と治山施設の点検を実施するとともに、広く地域住民に対して防災情報を提供します。
- 高まる水害・土砂災害リスクに対して、住民の避難行動を促し、人的被害をなくすため、きめ細やかに雨量・水位等を発信します。

(2) 自然災害を迎え撃つ県土の強靱化

- 命の道であり円滑な救急救命・防災活動に資する徳島南部自動車道や阿南安芸自動車道の整備を促進します。
- 国道195号、芥附海部線等の緊急輸送道路や津波迂回ルートなどを整備するとともに、由岐大西線、日和佐小野線など主要幹線道路の整備を推進し、強靱で信頼性の高い道路ネットワークを構築します。
- 切迫する南海トラフ巨大地震や激甚化・頻発化する水害等に備えるため、河川・海岸堤防等のハード・ソフト両面での地震・津波対策や、流域治水の考え方に基づく治水事業を着実に進めるとともに、那賀川の洪水・浸水被害の軽減を図るため、無堤対策や既設ダムとの再生事業を促進します。
- 災害の危険性が高い山地災害危険地区において、治山施設の整備と森林整備による森林の公益的機能の向上を図るとともに、防災重点農業用ため池の調査・整備の促進、ハザードマップによる情報共有などにより、洪水被害の軽減を図ります。
- 道路、河川、砂防、港湾などの社会インフラの計画的な老朽化対策を進めるとともに、「i-Construction※」等を積極的に進め、生産性の向上を図ります。

(3) 家畜防疫体制の強化

- 鳥インフルエンザの発生など、食料の安定供給や安全の確保に影響が生じるおそれがある緊急事態に備え、事業者や関係機関と連携し、家畜防疫体制等の拡充と強化を図ります。



自衛隊と連携した防災キャンプ



整備が進む阿南IC



鳥インフルエンザ発生に備えた防疫作業等の訓練

【 改正案 】



【施策の方向性】

(1) 危機管理体制の充実・強化

- 南部圏域の地域防災力の強化を図るため、防災士の資格取得支援に加え、人材の掘り起こしや知識・技能の向上・活用を図るとともに、行政はもとより、防災人材のネットワークを強化します。
- 地震や津波で甚大な被害が想定される南部圏域において、防災拠点をはじめ社会基盤・施設の整備を推進するとともに、実効性の高い広域避難体制の構築を図ります。
- 要配慮者一人ひとりが確実に避難できる避難支援体制づくりを目指し、市町における個別避難計画※の作成や、福祉避難所※の機能強化に向け、設備・体制の整備を支援します。
- 大規模災害発生時に刻々と変化する被災者や避難者の状況を把握し、医療救護活動が的確に実施できるよう、医療機関と災害時コーディネーター間のさらなる連携強化と訓練を通じた対応能力の向上を図ります。
- 山地災害から生命・財産を守るため、山地災害危険地区の定期的な調査と治山施設の点検を実施するとともに、広く地域住民に対して防災情報を提供します。
- 高まる水害・土砂災害リスクに対して、住民の避難行動を促し、人的被害をなくすため、きめ細やかに雨量・水位等を発信します。

(2) 自然災害を迎え撃つ県土の強靱化

- 命の道であり円滑な救急救命・防災活動に資する徳島南部自動車道や阿南安芸自動車道の整備を促進します。
- 国道195号、芥附海部線等の緊急輸送道路や津波迂回ルートなどを整備するとともに、由岐大西線、日和佐小野線など主要幹線道路の整備を推進し、強靱で信頼性の高い道路ネットワークを構築します。
- 切迫する南海トラフ巨大地震や激甚化・頻発化する水害等に備えるため、河川・海岸堤防等のハード・ソフト両面での地震・津波対策や、流域治水の考え方に基づく治水事業を着実に進めるとともに、那賀川の洪水・浸水被害の軽減を図るため、無堤対策や既設ダムとの再生事業を促進します。
- 災害の危険性が高い山地災害危険地区において、治山施設の整備と森林整備による森林の公益的機能の向上を図るとともに、防災重点農業用ため池の調査・整備の促進、ハザードマップによる情報共有などにより、洪水被害の軽減を図ります。
- 道路、河川、砂防、港湾などの社会インフラの計画的な老朽化対策を進めるとともに、「i-Construction※」等を積極的に進め、生産性の向上を図ります。

(3) 家畜防疫体制の強化

- 鳥インフルエンザの発生など、食料の安定供給や安全の確保に影響が生じるおそれがある緊急事態に備え、事業者や関係機関と連携し、家畜防疫体制等の拡充と強化を図ります。



「避難所開設キット」を使った避難所開設訓練



阿南IC開通 (R8.3.8)



鳥インフルエンザ発生に備えた防疫作業等の訓練

見直しの理由や概要



開通後写真差し替え



【 現 行 】

安心度UP

戦略2

健康づくりの推進と福祉の充実

【目指すべき将来の姿】

- 安全で安心な暮らしが確保され、医療・福祉・介護の連携と充実により、誰もが住み慣れた地域で、自分らしく生涯暮らし続けられる社会が実現しています。
- 適切な生活習慣の定着化とともに、南部圏域の強みである「自殺予防因子\*」を活かし、地域住民が心身ともに健康で幸せに暮らせています。
- 地域全体で子育て支援に取り組み、全ての子どもが健やかに成長できる社会が実現しています。
- DV・性暴力被害の相談先が身近にあることが広く周知され、被害の未然防止が図られるとともに被害に遭われた方が必要とする支援体制が構築されています。
- 官民による包括的・重層的な支援体制が構築され、人と地域がつながることにより、「孤独・孤立」や「生活困窮」の課題を克服し、社会参加・地域貢献できる地域共生社会が実現しています。

【現状と課題】

- 住民一人ひとりが、将来の健康変化について自ら考えて備え、必要な支援を受けられるよう、本人の選択と希望を最大限に活かせる地域の医療・介護支援体制の整備が必要です。
- 健康寿命の延伸のため、さらなる運動習慣の定着や食生活の改善による生活習慣病対策に、県民が主体的に取り組めるよう、関係機関との連携により、健康づくりに取り組みやすい環境整備が必要です。
- 困難を抱える子どもたちの問題は複雑・多様化しており、関係機関や地域が連携して、子どもや家庭を見守り、支えることの必要性が増しています。
- DV・性暴力被害者は心身に大きなダメージを受けているにも関わらず、誰にも相談できずにいる場合が多く、被害の潜在化が深刻な問題となっており、必要な支援につなげる対策が必要です。
- 誰一人取り残さない共生社会に向け、「ニーズに応じた生活困窮対策」の実施や、最後のセーフティネットとなる「保護と自立支援の機能強化」を図るとともに、深刻な社会問題となっている「孤独・孤立」の解消が必要となります。

【成果指標】

南部圏域における退院支援連絡実施率  
(出典：徳島県調べ)

2022年度実績

85%

2028年度目標

90%

指標の説明

介護支援専門員等が把握している退院数のうち、退院する際に入院医療機関から介護支援専門員等に連絡があった割合  
医療と地域介護との連携の度合いを示すことから、指標に選定

設定の考え方/得られる成果

これまでの実績等を踏まえ、医療・介護の連携の拡充を目指し、目標を設定  
継続的かつ包括的な在宅医療・介護の提供体制の整備に寄与



【 改 正 案 】

安心度UP

戦略2

健康づくりの推進と福祉の充実

【目指すべき将来の姿】

- 安全で安心な暮らしが確保され、医療・福祉・介護の連携と充実により、誰もが住み慣れた地域で、自分らしく生涯暮らし続けられる社会が実現しています。
- 適切な生活習慣の定着化とともに、南部圏域の強みである「自殺予防因子\*」を活かし、地域住民が心身ともに健康で幸せに暮らせています。
- 地域全体で子育て支援に取り組み、全ての子どもが健やかに成長できる社会が実現しています。
- DV・性暴力被害の相談先が身近にあることが広く周知され、被害の未然防止が図られるとともに被害に遭われた方が必要とする支援体制が構築されています。
- 官民による包括的・重層的な支援体制が構築され、人と地域がつながることにより、「孤独・孤立」や「生活困窮」の課題を克服し、社会参加・地域貢献できる地域共生社会が実現しています。

【現状と課題】

- 住民一人ひとりが、将来の健康変化について自ら考えて備え、必要な支援を受けられるよう、本人の選択と希望を最大限に活かせる地域の医療・介護支援体制の整備が必要です。
- 健康寿命の延伸のため、さらなる運動習慣の定着や食生活の改善による生活習慣病対策に、県民が主体的に取り組めるよう、関係機関との連携により、健康づくりに取り組みやすい環境整備が必要です。
- 困難を抱える子どもたちの問題は複雑・多様化しており、関係機関や地域が連携して、子どもや家庭を見守り、支えることの必要性が増しています。
- DV・性暴力被害者は心身に大きなダメージを受けているにも関わらず、誰にも相談できずにいる場合が多く、被害の潜在化が深刻な問題となっており、必要な支援につなげる対策が必要です。
- 誰一人取り残さない共生社会に向け、「ニーズに応じた生活困窮対策」の実施や、最後のセーフティネットとなる「保護と自立支援の機能強化」を図るとともに、深刻な社会問題となっている「孤独・孤立」の解消が必要となります。

【成果指標】

南部圏域における退院支援連絡実施率  
(出典：徳島県調べ)

2022年度実績

85%

2028年度目標

90%

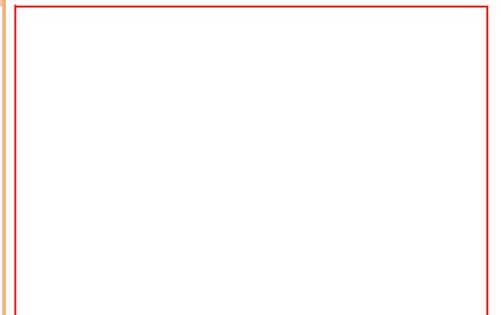
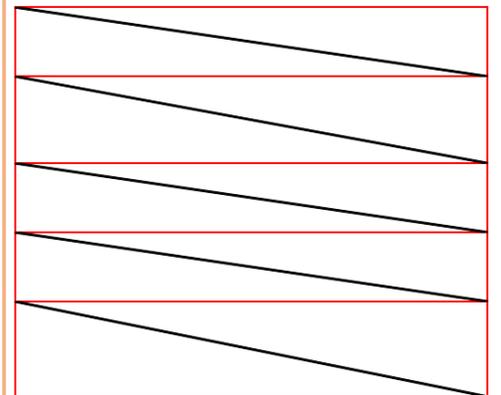
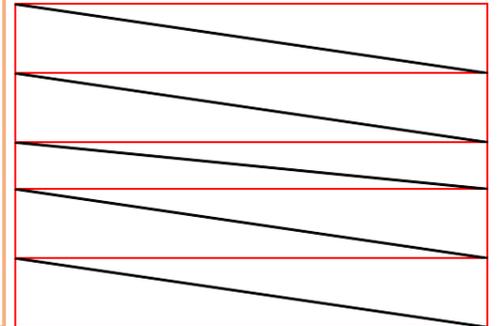
指標の説明

介護支援専門員等が把握している退院数のうち、退院する際に入院医療機関から介護支援専門員等に連絡があった割合  
医療と地域介護との連携の度合いを示すことから、指標に選定

設定の考え方/得られる成果

これまでの実績等を踏まえ、医療・介護の連携の拡充を目指し、目標を設定  
継続的かつ包括的な在宅医療・介護の提供体制の整備に寄与

見直しの理由や概要



【 現 行 】

南部圏域における自殺死亡率  
(出典：警察庁「自殺統計」)

2022年実績  
(※2020年～2022年平均)

15.5

2028年目標

13.0以下  
「自殺者ゼロ」を目指す

指標の説明  
人口10万人あたりの自殺者数  
人口動態に関わらず自殺の状況を把握するため、この指標を選定

設定の考え方／得られる成果  
国の自殺総合対策大綱が目標とする「自殺死亡率13.0以下」を目標としつつ、「自殺者ゼロ」を目指し、目標値を設定  
この目標達成により、全ての人のいのちを守る「生き心地のよい徳島」の実現に寄与



【 施 策 の 方 向 性 】

(1) 生涯健康で安心して暮らせる社会の実現

- 地域の医療資源や支援体制を活用した「地域包括ケアシステム」の深化・推進に向け、関係機関の連携強化と人材育成に取り組みます。
- 高齢社会のさらなる進行を見据え、健康寿命延伸のため、ライフコースに応じた健康に関する正しい知識の普及啓発や、住民自らが健康づくりに取り組みやすい環境づくりを推進するとともに、地域医療連携を推進することにより、生活習慣病の発症予防と重症化予防に努めます。
- 児童虐待の未然防止や早期発見・早期対応に向け、市町や学校、警察をはじめとする関係機関に対する研修等を実施し、関係者の資質向上と連携強化を図ります。
- DV・性暴力の早期発見や発生防止を図るため、講座やパネル展など啓発活動を実施するとともに、DV被害者等支援ネットワーク等の関係機関との一層の連携を図ります。

(2) 「地域の絆」による福祉の充実

- 自殺対策や「自殺予防因子\*」に関する普及啓発活動において、関係団体等と連携強化するとともにワンストップを意識した相談・支援体制の充実を図ります。
- ハローワークとの連携による就労支援等、被保護者の状況に応じた就労支援を展開し、一人でも多くの被保護者の自立を促進します。



ケアカフェ（多職種連携研修会）の様子  
(阿南市在宅医療・介護連携支援センター主催)



世界糖尿病デーテーブルライトアップ



DV・性暴力防止啓発

【 改 正 案 】

南部圏域における自殺死亡率  
(出典：警察庁「自殺統計」)

2022年実績  
(※2020年～2022年平均)

15.5

2028年目標

13.0以下  
「自殺者ゼロ」を目指す

指標の説明  
人口10万人あたりの自殺者数  
人口動態に関わらず自殺の状況を把握するため、この指標を選定

設定の考え方／得られる成果  
国の自殺総合対策大綱が目標とする「自殺死亡率13.0以下」を目標としつつ、「自殺者ゼロ」を目指し、目標値を設定  
この目標達成により、全ての人のいのちを守る「生き心地のよい徳島」の実現に寄与



【 施 策 の 方 向 性 】

(1) 生涯健康で安心して暮らせる社会の実現

- 地域の医療資源や支援体制を活用した「地域包括ケアシステム」の深化・推進に向け、関係機関の連携強化と人材育成に取り組みます。
- 高齢社会のさらなる進行を見据え、健康寿命延伸のため、ライフコースに応じた健康に関する正しい知識の普及啓発や、住民自らが健康づくりに取り組みやすい環境づくりを推進するとともに、地域医療連携を推進することにより、生活習慣病の発症予防と重症化予防に努めます。
- 児童虐待の未然防止や早期発見・早期対応に向け、市町や学校、警察をはじめとする関係機関に対する研修等を実施し、関係者の資質向上と連携強化を図ります。
- DV・性暴力の早期発見や発生防止を図るため、講座やパネル展など啓発活動を実施するとともに、DV被害者等支援ネットワーク等の関係機関との一層の連携を図ります。

(2) 「地域の絆」による福祉の充実

- 自殺対策や「自殺予防因子\*」に関する普及啓発活動において、関係団体等と連携強化するとともにワンストップを意識した相談・支援体制の充実を図ります。
- ハローワークとの連携による就労支援等、被保護者の状況に応じた就労支援を展開し、一人でも多くの被保護者の自立を促進します。



ケアカフェ（多職種連携研修会）の様子  
(阿南市在宅医療・介護連携支援センター主催)

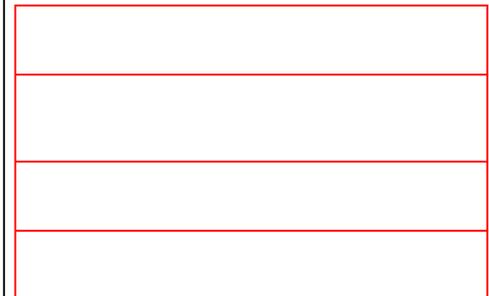


世界糖尿病デーテーブルライトアップ



DV・性暴力防止啓発

見直しの理由や概要





【 現行 】

安心度UP

戦略3

恵み豊かな自然環境の保全と継承

【目指すべき将来の姿】

- 地域が連携し、環境と調和した地域づくりの推進により、自然環境の保全とその活動を支える人材の育成が進められ、豊かな自然環境が継承されています。
- 2050年カーボンニュートラル\*に向けて、県民主役による脱炭素化が加速するとともに、地域資源の有効活用による経済と環境の好循環が生まれ、「環境負荷の低減」と「経済成長」を両立する「持続可能なグリーン社会」の構築が着実に進んでいます。

【現状と課題】

- 「千年サンゴ\*」等豊かな自然環境を次世代に継承するため、地域で保全活動に取り組んでおり、今後も引き続き活動を継続するには、人材を確保する必要があります。
- 南部圏域の多様な生態系を守るため、身近な自然環境について学ぶとともに保全活動への理解を深める機会を確保する必要があります。
- 南部圏域の豊かな自然を維持するため、水環境や森林環境の適正な管理を継続する必要があります。
- 脱炭素社会の実現に向けて、省エネ対策や県有施設の脱炭素化など県の率先的な取組が求められています。
- 野生鳥獣により農作物や植生に深刻な被害が生じており、適正な個体数管理と総合的な被害防止対策が必要であり、さらに、捕獲した野生鳥獣の有効活用（ジビエ）が重要です。

【成果指標】

ボランティア活動証明制度の表彰者数（累計）  
（出典：徳島県調べ）

2022年度実績

9人

2028年度目標

40人

指標の説明

南部圏域の環境課題等に産学民官で取り組む「みなみから届ける環づくり会議\*」において「環づくりボランティア促進事業」として、地元高校生等を対象に環境保全等ボランティア活動実績に応じ、表彰  
自然環境保全活動の人材育成・確保の実績数値（累計）であることから、この指標を選定（2020年度から2022年度の累計）

設定の考え方/得られる成果

初年度である2020年度から2022年度の表彰者及びボランティア活動の実績を踏まえ、ボランティア活動に参加する人材を確保することを目指し、目標を設定  
この目標達成により、地域の環境保全等ボランティア活動の周知と人材育成・確保に寄与

南部圏域における保安林の指定面積（累計）  
（出典：徳島県調べ）

2022年度実績

379ha

2028年度目標

980ha

指標の説明

無秩序な開発を防止し、水源のかん養や、土砂災害の防備、CO<sub>2</sub>の吸収など森林の持つ公益的機能の維持増進に寄与することから、この指標を選定（2019年度からの累計）

設定の考え方/得られる成果

南部圏域において、毎年100haの保安林の指定を目指し、目標を設定  
この目標達成により無秩序な開発を防止し、森林の持つ公益的機能の維持増進に寄与（2019年度からの累計）



【 改正案 】

安心度UP

戦略3

恵み豊かな自然環境の保全と継承

【目指すべき将来の姿】

- 地域が連携し、環境と調和した地域づくりの推進により、自然環境の保全とその活動を支える人材の育成が進められ、豊かな自然環境が継承されています。
- 2050年カーボンニュートラル\*に向けて、県民主役による脱炭素化が加速するとともに、地域資源の有効活用による経済と環境の好循環が生まれ、「環境負荷の低減」と「経済成長」を両立する「持続可能なグリーン社会」の構築が着実に進んでいます。

【現状と課題】

- 「千年サンゴ\*」等豊かな自然環境を次世代に継承するため、地域で保全活動に取り組んでおり、今後も引き続き活動を継続するには、人材を確保する必要があります。
- 南部圏域の多様な生態系を守るため、身近な自然環境について学ぶとともに保全活動への理解を深める機会を確保する必要があります。
- 南部圏域の豊かな自然を維持するため、水環境や森林環境の適正な管理を継続する必要があります。
- 脱炭素社会の実現に向けて、省エネ対策や県有施設の脱炭素化など県の率先的な取組が求められています。
- 野生鳥獣により農作物や植生に深刻な被害が生じており、適正な個体数管理と総合的な被害防止対策が必要であり、さらに、捕獲した野生鳥獣の有効活用（ジビエ）が重要です。

【成果指標】

ボランティア活動証明制度の表彰者数（累計）  
（出典：徳島県調べ）

2022年度実績

9人

2028年度目標

40人

指標の説明

南部圏域の環境課題等に産学民官で取り組む「みなみから届ける環づくり会議\*」において「環づくりボランティア促進事業」として、地元高校生等を対象に環境保全等ボランティア活動実績に応じ、表彰  
自然環境保全活動の人材育成・確保の実績数値（累計）であることから、この指標を選定（2020年度から2022年度の累計）

設定の考え方/得られる成果

初年度である2020年度から2022年度の表彰者及びボランティア活動の実績を踏まえ、ボランティア活動に参加する人材を確保することを目指し、目標を設定  
この目標達成により、地域の環境保全等ボランティア活動の周知と人材育成・確保に寄与

南部圏域における保安林の指定面積（累計）  
（出典：徳島県調べ）

2022年度実績

379ha

2028年度目標

980ha

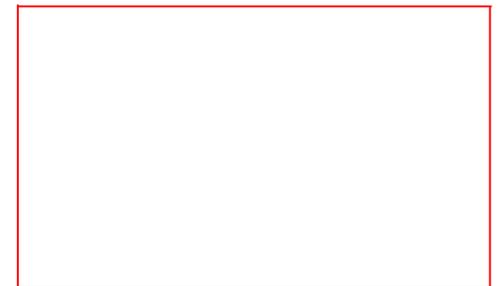
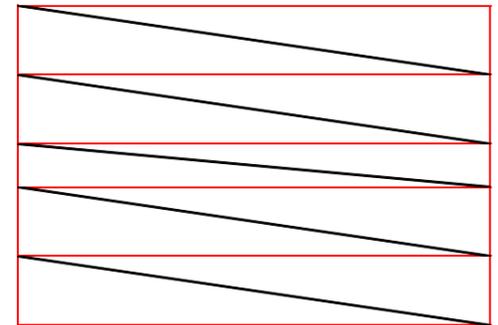
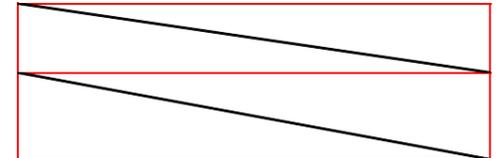
指標の説明

無秩序な開発を防止し、水源のかん養や、土砂災害の防備、CO<sub>2</sub>の吸収など森林の持つ公益的機能の維持増進に寄与することから、この指標を選定（2019年度からの累計）

設定の考え方/得られる成果

南部圏域において、毎年100haの保安林の指定を目指し、目標を設定  
この目標達成により無秩序な開発を防止し、森林の持つ公益的機能の維持増進に寄与（2019年度からの累計）

見直しの理由や概要



【 現行 】



【施策の方向性】

- (1) 次世代への自然環境の継承**
- 「千年サンゴ<sup>\*</sup>」を育む美しい海や、「伊島ササユリ<sup>\*</sup>」など、県民の財産である南部圏域の豊かな自然を次世代に継承するため、地域と連携して環境保全活動に取り組みます。
  - 環境保全活動を継続するため、地域の団体・企業等との連携を推進するとともに高校生等ボランティアの参加を促進し、人材の育成・確保に取り組みます。
  - 環境保全への意識を向上させるため、南部圏域の海が育む多様な生物を取り巻く環境や海洋漂着物、海洋プラスチックごみ問題についての学習を推進します。
  - 計画的な河川の採水検査及び排水基準を有する事業場への監視・指導を実施し、良好な水環境を継承します。
  - 水源のかん養や、土砂災害の防備など森林の持つ公益的機能の維持増進を図るため、保安林の指定や治山施設の整備を推進します。
  - 省エネルギー対策として、県管理道路における道路照明灯等のLED化を推進します。

- (2) 豊富な自然資源等の利活用**
- 「徳島県みどりの食料システム戦略基本計画」に基づき、有機農業の団地化、木質等バイオマスの活用、Jクレジット<sup>\*</sup>の創出・販売、藻場の再生等、脱炭素・環境負荷低減技術の導入を推進します。
  - 樫木備長炭の生産及び国内外への販路拡大を支援し、持続性の高い「樫木林業」を振興するとともに、「樫木林業」の「日本農業遺産」認定を契機とし、南部圏域が循環型社会のモデル地域となる「樫木林業の聖地」として認知されるよう、環境学習等の新たな受け入れ体制の強化を図ります。
  - 木材資源の有効活用を図るため、県管理道路における県産材（間伐材）を使った木製ガードレール等の整備を推進します。
  - 侵入防止柵の設置など集落ぐるみでの総合的な鳥獣被害防止対策を推進するとともに、シビエ処理加工施設の整備等により、捕獲した野生鳥獣の有効活用を推進します。



海のお宝探し&磯の生き物観察会



水を育む保安林



野生鳥獣の有効活用（シビエ）

【 改正案 】



【施策の方向性】

- (1) 次世代への自然環境の継承**
- 「千年サンゴ<sup>\*</sup>」を育む美しい海や、「伊島ササユリ<sup>\*</sup>」など、県民の財産である南部圏域の豊かな自然を次世代に継承するため、地域と連携して環境保全活動に取り組みます。
  - 環境保全活動を継続するため、地域の団体・企業等との連携を推進するとともに高校生等ボランティアの参加を促進し、人材の育成・確保に取り組みます。
  - 環境保全への意識を向上させるため、南部圏域の海が育む多様な生物を取り巻く環境や海洋漂着物、海洋プラスチックごみ問題についての学習を推進します。
  - 計画的な河川の採水検査及び排水基準を有する事業場への監視・指導を実施し、良好な水環境を継承します。
  - 水源のかん養や、土砂災害の防備など森林の持つ公益的機能の維持増進を図るため、保安林の指定や治山施設の整備を推進します。
  - 省エネルギー対策として、県管理道路における道路照明灯等のLED化を推進します。

- (2) 豊富な自然資源等の利活用**
- 「徳島県みどりの食料システム戦略基本計画」に基づき、有機農業の団地化、木質等バイオマスの活用、Jクレジット<sup>\*</sup>の創出・販売、藻場の再生等、脱炭素・環境負荷低減技術の導入を推進します。
  - 樫木備長炭の生産及び国内外への販路拡大を支援し、持続性の高い「樫木林業」を振興するとともに、「樫木林業」の「日本農業遺産」認定を契機とし、南部圏域が循環型社会のモデル地域となる「樫木林業の聖地」として認知されるよう、環境学習等の新たな受け入れ体制の強化を図ります。
  - 木材資源の有効活用を図るため、県管理道路における県産材（間伐材）を使った木製ガードレール等の整備を推進します。
  - 侵入防止柵の設置など集落ぐるみでの総合的な鳥獣被害防止対策を推進するとともに、シビエ処理加工施設の整備等により、捕獲した野生鳥獣の有効活用を推進します。



海のお宝探し&磯の生き物観察会



水を育む保安林



野生鳥獣の有効活用（シビエ）

見直しの理由や概要





【 現行 】

魅力度UP

戦略4 南部圏域の強みを活かした観光誘客の加速

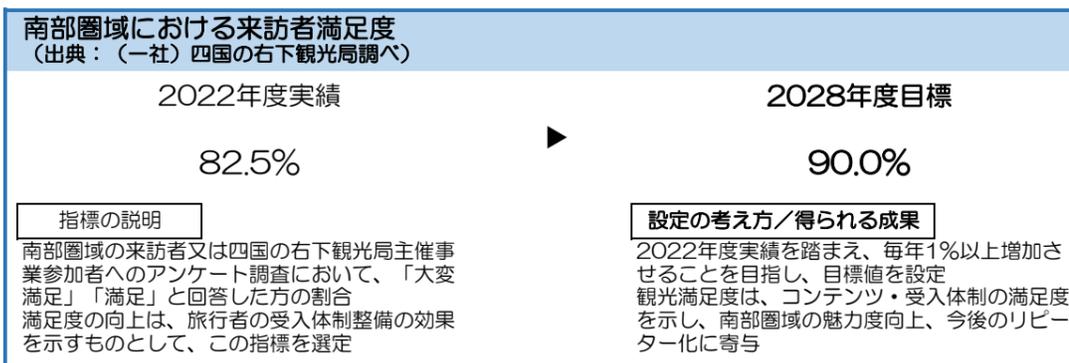
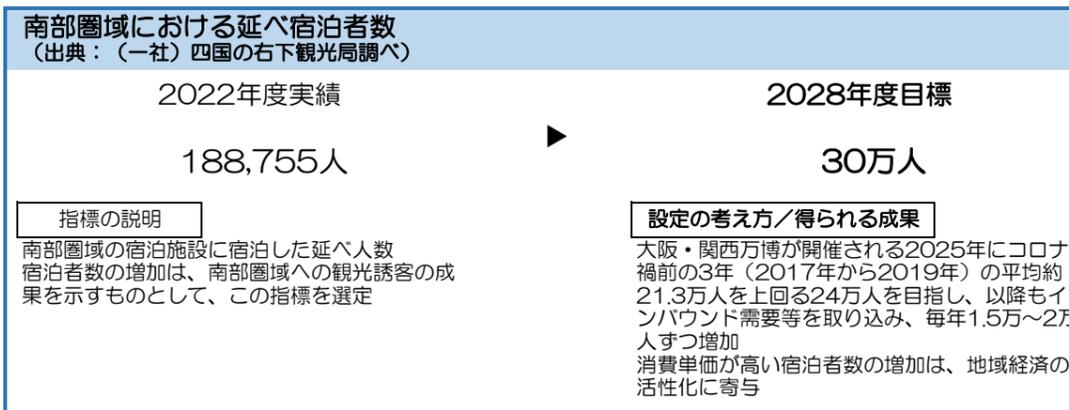
【目指すべき将来の姿】

- 海・山・川の三拍子揃った豊かな自然環境や地域に引き継がれた歴史・伝統産業等の特色ある文化など、地域資源を活かした体験型観光により、国内外から観光客が訪れ、地域が賑わっています。
- 外国人をはじめ、多様な観光客の受入体制が整えられ、「お接待」の文化に根付いたおもてなしにより、地域との交流が生まれています。
- サーフィンをはじめとするマリンスポーツなど、南部圏域特有の自然環境を活かしたアウトドアスポーツを通じて、交流人口が増加し、さらなる賑わいがもたらされています。

【現状と課題】

- 国内旅行者やインバウンド等の圏域をまたいだ観光需要に応えるため、地域が連携し、旅行者の周遊促進を図る必要があります。
- 増加が見込まれるインバウンドなどの旅行需要に対応し、多様な観光客の受入体制（キャッシュレス決済、災害時安全安心マニュアル、通訳ボランティア等）を整備する必要があります。
- 南部圏域の豊かな自然や伝統文化を活かした体験など、魅力的な観光資源を有効活用するため、「大阪・関西万博」を契機とし、地域の認知度を向上させる必要があります。

【成果指標】



【 改正案 】

魅力度UP

戦略4 南部圏域の強みを活かした観光誘客の加速

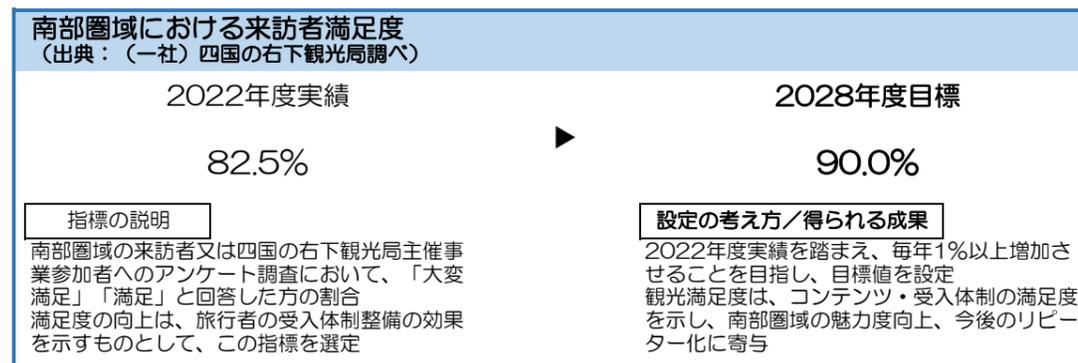
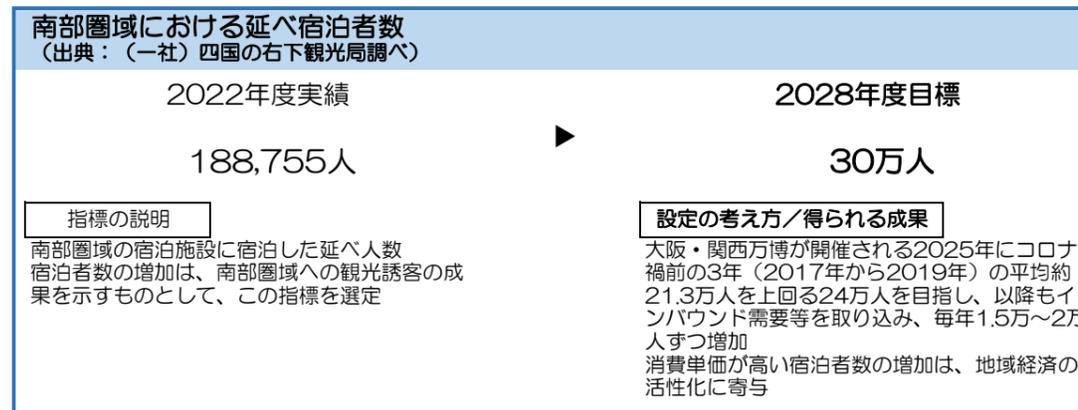
【目指すべき将来の姿】

- 海・山・川の三拍子揃った豊かな自然環境や地域に引き継がれた歴史・伝統産業等の特色ある文化など、地域資源を活かした体験型観光により、国内外から観光客が訪れ、地域が賑わっています。
- 外国人をはじめ、多様な観光客の受入体制が整えられ、「お接待」の文化に根付いたおもてなしにより、地域との交流が生まれています。
- サーフィンをはじめとするマリンスポーツなど、南部圏域特有の自然環境を活かしたアウトドアスポーツを通じて、交流人口が増加し、さらなる賑わいがもたらされています。

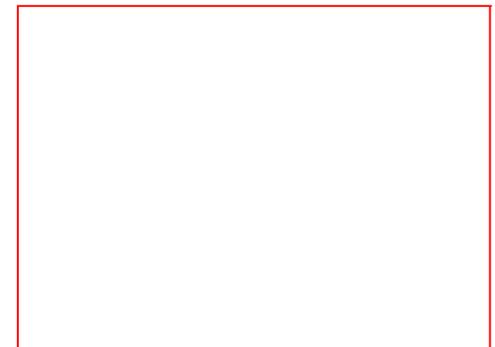
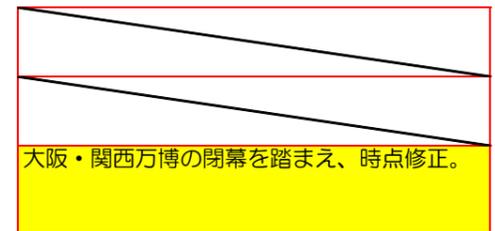
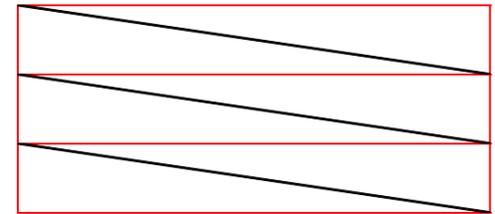
【現状と課題】

- 国内旅行者やインバウンド等の圏域をまたいだ観光需要に応えるため、地域が連携し、旅行者の周遊促進を図る必要があります。
- 増加が見込まれるインバウンドなどの旅行需要に対応し、多様な観光客の受入体制（キャッシュレス決済、災害時安全安心マニュアル、通訳ボランティア等）を整備する必要があります。
- **南部圏域の豊かな自然や伝統文化を活かした体験など、魅力的な観光資源を有効活用するため、「大阪・関西万博」を契機とし、地域の認知度を向上させる必要があります。**

【成果指標】



見直しの理由や概要



【 現行 】



【施策の方向性】

(1) 地域資源の磨き上げによる魅力向上

- (一社)みなみ阿波観光局(DMO)と連携し、観光市場の動向も踏まえ、南部圏域ならではの豊かな自然・食・伝統文化を活かしたサステナブルな体験型コンテンツの造成により、新たな観光需要を創出します。
- DMOと連携し、デュアル・モード・ビークル(DMV)を活用した観光コンテンツを開発する「DMV+1」の取組を推進し、さらなる魅力向上を図ります。
- DMVによる観光誘客に加え、インバウンドなど多様な観光需要に応えられるよう、本県南部圏域と高知県東部圏域が連携し、広域的な周遊促進を図ります。

(2) 観光誘客の受入体制の充実

- 増加が見込まれるインバウンド需要を取り込むため、観光事業者等における受入体制の強化や、外国人旅行者が旅行しやすい環境整備を促進します。
- 教育旅行の受入を加速するため、南部圏域の豊かな自然・歴史・文化等を活用した体験型コンテンツの造成や磨き上げ、受入先の確保や環境整備を促進します。
- 観光事業者における人材不足に対応するため、観光人材の育成や確保、観光事業の生産性向上を促進します。

(3) 戦略的なプロモーション活動の展開

- デジタル技術を活用し、来訪者データの分析等を進め、効果的な魅力発信や、インバウンド向けプロモーション及びFIT(海外個人旅行)に訴求する情報発信を行います。
- 南部圏域の認知度を向上させるため、著名人の活用等による戦略的なプロモーションを展開します。
- DMOと連携し、南部圏域ならではの既存資源を最大限活かした体験型コンテンツの積極的なセールスを行うとともに、メディアを活用した効果的なPRを実施します。



SUP体験(体験型観光)



インバウンドおもてなし



著名人によるPR  
(SNS等で情報発信)

【 改正案 】



【施策の方向性】

(1) 地域資源の磨き上げによる魅力向上

- (一社)みなみ阿波観光局(DMO)と連携し、観光市場の動向も踏まえ、南部圏域ならではの豊かな自然・食・伝統歴史文化を活かしたウェルネスツーリズム\*を推進し、さらなる魅力向上を図ります。
- DMOと連携し、釣~リズム、歴史探訪、DMV+1等のサステナブルな体験型コンテンツ造成により新たな観光需要を創出します。
- 本県南部圏域と高知県東部圏域が連携し、地域を「面」でとらえた一体的な観光施策を展開することにより、広域的な周遊促進を図ります。

新たな観光需要を創出するため、近年観光需要の主要な流れとなっているウェルネスツーリズムに着目し、DMV+1に加え、「地域の観光資源」と「釣り」を組み合わせた「釣~リズム」コンテンツ造成など具体的な取組を記載。

観光事業者の交流機会の創出や両県相互のイベント出展、両県の周遊観光や滞在時間の延長につながる周遊企画など周遊促進のための一体的な施策を展開し、広域的な周遊促進を図る方向性に文言を整理。

見直しの理由や概要

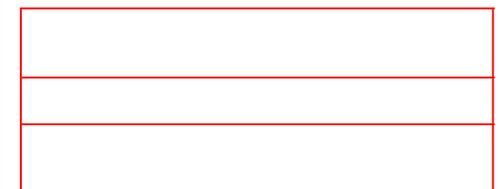
(2) 観光誘客の受入体制の充実

- 増加が見込まれるインバウンド需要を取り込むため、観光事業者等における受入体制の強化や、外国人旅行者が旅行しやすい環境整備を促進します。
- 教育旅行の受入を加速するため、南部圏域の豊かな自然・歴史・文化等を活用した体験型コンテンツの造成や磨き上げ、受入先の確保や環境整備を促進します。
- 観光事業者における人材不足に対応するため、観光人材の育成や確保、観光事業の生産性向上を促進します。



(3) 戦略的なプロモーション活動の展開

- デジタル技術を活用し、来訪者データの分析等を進め、効果的な魅力発信や、インバウンド向けプロモーション及びFIT(海外個人旅行)に訴求する情報発信を行います。
- 南部圏域の認知度を向上させるため、著名人の活用等による戦略的なプロモーションを展開します。
- DMOと連携し、南部圏域ならではの既存資源を最大限活かした体験型コンテンツの積極的なセールスを行うとともに、メディアを活用した効果的なPRを実施します。



釣りガールを活用した  
釣~リズムの展開



先輩オーナーから学ぶ  
古民家等活用セミナー



著名人によるPR



【 現行 】

魅力度UP

戦略5

農林水産業の持続可能な発展

【目指すべき将来の姿】

- 南部圏域の多様で魅力あふれる農林水産物の生産体制の維持・強化が図られるとともに、ブランド化や販路拡大が進み、農林水産業が地域経済を支える基幹産業として発展しています。
- 若者を中心とした「元気な農林漁業者」や「農業支援サービス事業体<sup>※</sup>」など、多様な担い手により持続性のある農林水産業経営が行われ、農山漁村地域が活気に満ちあふれています。
- スマート技術の導入や生産基盤の整備等により、生産性の向上と高品質化が図られるとともに、脱炭素・環境負荷低減技術の導入等により持続可能な農林水産業が営まれています。

【現状と課題】

- 販売価格の低迷、資材価格の高騰に伴うコスト高などにより、生産者の不安定な経営が続く状況を打開するため、南部圏域の伝統、強みをフルに活かした特産品等の国内外への販路拡大をより強力に進める必要があります。
- 農林水産業における担い手の減少が続く中、持続可能な生産体制を維持し農山漁村の活性化を図るため、南部圏域の魅力を最大限活用し、若者を中心とする多様な担い手を確保・育成していくとともに、新たな就農システムの構築や生産体制の強化が必要です。
- 労働力が減少する中、省力化による経営規模拡大や生産性の効率化が可能となる農林水産業DXの実装が不可欠です。
- 持続可能な農林水産業実現のため、「徳島県みどりの食料システム戦略基本計画」に基づき、脱炭素・環境負荷低減技術の導入を着実に進める必要があります。

【成果指標】

南部圏域における農業産出額  
(出典：農林水産省「生産農業所得統計」)

2021年実績

103億円

指標の説明

南部圏域の米、野菜、果実、畜産等の各品目の生産量に農家庭先販売価格を乗じたもの産地振興を表す指標の一つとして設定

2028年目標

103億円

設定の考え方/得られる成果

担い手不足、農地面積の減少等が進行し、農業産出額が減少傾向にある中、農業振興施策を実施することにより、農業産出額を安定して維持することを目指し、目標を設定  
この目標達成により、農業所得の維持・向上に寄与

南部圏域の農林水産業の新規就業者数(累計)  
(出典：徳島県調べ)

2022年度実績

195人

指標の説明

「新規就農者数」「林業事業体における新規就業者雇用」「新規漁業就業者」の合計産地の維持強化を表す指標の一つとして設定(2018年度からの累計)

2028年度目標

430人

設定の考え方/得られる成果

現在の生産力を維持するためには、担い手確保が不可欠であることから、現在と同水準を目指し、目標を設定  
この目標達成により、農林水産業の維持・発展や地域の活性化に寄与(2018年度からの累計)



【 改正案 】

魅力度UP

戦略5

農林水産業の持続可能な発展

【目指すべき将来の姿】

- 南部圏域の多様で魅力あふれる農林水産物の生産体制の維持・強化が図られるとともに、ブランド化や販路拡大が進み、農林水産業が地域経済を支える基幹産業として発展しています。
- 若者を中心とした「元気な農林漁業者」や「農業支援サービス事業体<sup>※</sup>」など、多様な担い手により持続性のある農林水産業経営が行われ、農山漁村地域が活気に満ちあふれています。
- スマート技術の導入や生産基盤の整備等により、生産性の向上と高品質化が図られるとともに、脱炭素・環境負荷低減技術の導入等により持続可能な農林水産業が営まれています。

【現状と課題】

- 販売価格の低迷、資材価格の高騰に伴うコスト高などにより、生産者の不安定な経営が続く状況を打開するため、南部圏域の伝統、強みをフルに活かした特産品等の国内外への販路拡大をより強力に進める必要があります。
- 農林水産業における担い手の減少が続く中、持続可能な生産体制を維持し農山漁村の活性化を図るため、南部圏域の魅力を最大限活用し、若者を中心とする多様な担い手を確保・育成していくとともに、新たな就農システムの構築や生産体制の強化が必要です。
- 労働力が減少する中、省力化による経営規模拡大や生産性の効率化が可能となる農林水産業DXの実装が不可欠です。
- 持続可能な農林水産業実現のため、「徳島県みどりの食料システム戦略基本計画」に基づき、脱炭素・環境負荷低減技術の導入を着実に進める必要があります。

【成果指標】

南部圏域における農業産出額  
(出典：農林水産省「生産農業所得統計」)

2021年実績

103億円

指標の説明

南部圏域の米、野菜、果実、畜産等の各品目の生産量に農家庭先販売価格を乗じたもの産地振興を表す指標の一つとして設定

2028年目標

103億円

設定の考え方/得られる成果

担い手不足、農地面積の減少等が進行し、農業産出額が減少傾向にある中、農業振興施策を実施することにより、農業産出額を安定して維持することを目指し、目標を設定  
この目標達成により、農業所得の維持・向上に寄与

南部圏域の農林水産業の新規就業者数(累計)  
(出典：徳島県調べ)

2022年度実績

195人

指標の説明

「新規就農者数」「林業事業体における新規就業者雇用」「新規漁業就業者」の合計産地の維持強化を表す指標の一つとして設定(2018年度からの累計)

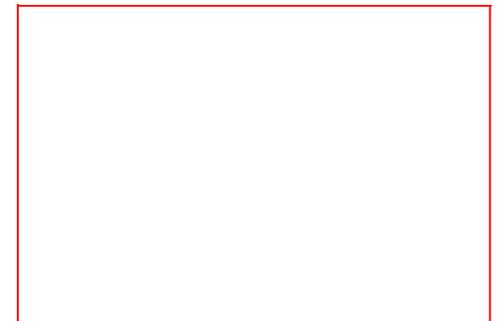
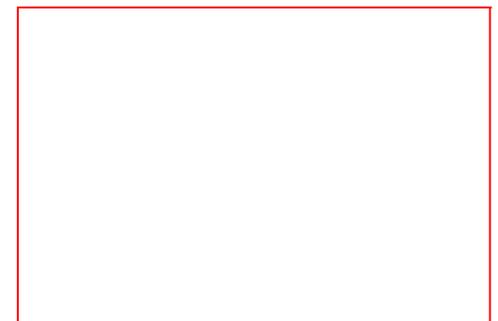
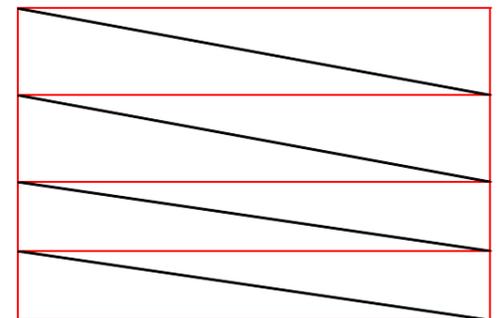
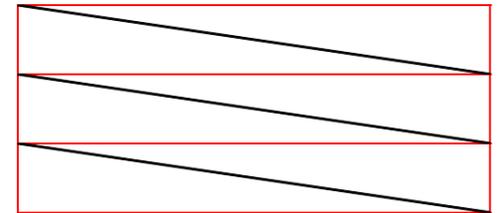
2028年度目標

430人

設定の考え方/得られる成果

現在の生産力を維持するためには、担い手確保が不可欠であることから、現在と同水準を目指し、目標を設定  
この目標達成により、農林水産業の維持・発展や地域の活性化に寄与(2018年度からの累計)

見直しの理由や概要



【 現行 】



【施策の方向性】

- (1) 「攻めの農林水産業」の展開
- 「木頭ゆず」、「阿波尾鶏」をはじめとした南部圏域の特色ある農林水産物の魅力発信を強化し、輸出など販路拡大を図ります。
  - 樫木備長炭の生産及び国内外への販路拡大を支援し、持続性の高い「樫木林業」を振興するとともに、「地炎地食<sup>\*</sup>」の価値観を創出し、南部圏域の農林水産物と併せて消費拡大を図ります。また、「日本農業遺産」認定を契機とし、新たなブランド価値を確立し、認知拡大を図ります。
  - 「海部の魚」の新たな販路開拓や、SNS等を活用した情報発信の実施により、ブランド力を強化し、「もつかる漁業」の実現を図ります。

- (2) 担い手の育成と確保
- 海部地域では、「就農」や「農ある暮らし」を志向する若者等の受け皿となる「農業支援サービス事業体」の更なる育成を図り、新規就農をはじめ、副業や半農半X、定年就農等、多様な担い手を確保、育成する「海部型移住就農システム」を推進します。
  - 阿南・那賀地域では、産地が一体となり産地再生を目指す「農の里づくり」を進め、若者を中心とした「元気な農業者」の育成を図ります。
  - 「林業アカデミー」や「漁業アカデミー」と連携し、小中高生や大学生を対象とした就業体験やインターンシップの受け入れ等により、将来の地域林業・漁業を支える人づくり、即戦力となる人材育成に取り組みます。

- (3) DX・GXの推進による持続可能な農林水産業の実現
- 施設園芸における複合環境制御技術や航空測量データを活用した森林管理、また、スマート農業対応型基盤整備等により農林水産業のDXを推進します。
  - 農村集落の住民が主体となってデジタル技術を活用し「農業」と「農地保全」を軸とした経済活動と併せて農村生活の支援などに取り組む「農村RMO（農村型地域運営組織）」を推進します。
  - 「徳島県みどりの食料システム戦略基本計画」に基づき、有機農業の団地化、木質等バイオマスの活用、Jクレジットの創出・販売、藻場の再生等、脱炭素・環境負荷低減技術の導入を推進します。（再掲）



アカムツ（ノドグロ）のタグ打ち出荷  
（「海部の魚」のブランド化）



地域の将来ビジョン実現に向けた集落点検  
（先駆的に進む農村RMOの推進）



択伐による広葉樹林の適正管理  
（持続性の高い樫木林業の推進）

【 改正案 】



【施策の方向性】

- (1) 「攻めの農林水産業」の展開
- **木頭ゆず、阿波尾鶏をはじめとした南部圏域の特色ある農林水産物の魅力発信を強化し、輸出など販路拡大を図るとともに、地球温暖化に対応した水稻再生二期作<sup>\*</sup>技術や主要品目における高温対策を導入・実証し、水稻の生産拡大や果樹等の高品質安定生産により、農家収益の向上を図ります。**
  - 樫木備長炭の生産及び国内外への販路拡大を支援し、持続性の高い「樫木林業」を振興するとともに、「地炎地食<sup>\*</sup>」の価値観を創出し、南部圏域の農林水産物と併せて消費拡大を図ります。また、「日本農業遺産」認定を契機とし、新たなブランド価値を確立し、認知拡大を図ります。
  - 「海部の魚」の新たな販路開拓や、SNS等を活用した情報発信の実施により、ブランド力を強化し、「もつかる漁業」の実現を図ります。

- (2) 担い手の育成と確保
- **海部地域では、地域の基幹品目である水稻を核とした農業を未来へつなぐため、若者等の受け皿となる農業法人の育成を図るとともに、地域外からの多様な人材の確保に向けて、海部地域や農村生活に興味を持つ「農ある暮らし」人材の掘り起こしを推進します。**
  - 阿南・那賀地域では、産地が一体となり産地再生を目指す「農の里づくり」を進め、若者を中心とした「元気な農業者」の育成を図ります。
  - 「林業アカデミー」や「漁業アカデミー」と連携し、小中高生や大学生を対象とした就業体験やインターンシップの受け入れ等により、将来の地域林業・漁業を支える人づくり、即戦力となる人材育成に取り組みます。

- (3) DX・GXの推進による持続可能な農林水産業の実現
- 施設園芸における複合環境制御技術や航空測量データを活用した森林管理、また、スマート農業対応型基盤整備等により農林水産業のDXを推進します。
  - 農村集落の住民が主体となってデジタル技術を活用し「農業」と「農地保全」を軸とした経済活動と併せて農村生活の支援などに取り組む「農村RMO（農村型地域運営組織）」を推進します。
  - 「徳島県みどりの食料システム戦略基本計画」に基づき、有機農業の団地化、木質等バイオマスの活用、Jクレジットの創出・販売、藻場の再生等、脱炭素・環境負荷低減技術の導入を推進します。（再掲）



アカムツ（ノドグロ）のタグ打ち出荷  
（「海部の魚」のブランド化）



地域の将来ビジョン実現に向けた集落点検  
（先駆的に進む農村RMOの推進）



択伐による広葉樹林の適正管理  
（持続性の高い樫木林業の推進）

見直しの理由や概要

R8当初予算及び政策総合会議田中委員の発言を受けて、新たに気候変動対策の取り組みを追加

R8当初予算を反映



【 現行 】

魅力度UP

戦略6

「新しい人の流れ」の創出

【目指すべき将来の姿】

- 南部圏域の若者やゆかりのある方々が、この地域に誇りを持ち、「ずっと居りたい」「いつも帰りたい」「みんな行きたい」と思える地域づくりが実現しています。
- 地域に愛着を持つ若者に加え、移住者などの力も相まって、伝統ある歴史・文化が維持・継承され、心豊かで活力ある地域が実現しています。
- 若者を中心とした「元気な農林漁業者」や「農業支援サービス事業体」など、多様な担い手により持続性のある農林水産業経営が行われ、農山漁村地域が活気に満ちあふれています。（再掲）

【現状と課題】

- 人口減少や過疎高齢化の進行により、地域のコミュニティの衰退や、伝統文化、祭礼などの行事の継承が困難となりつつあります。
- テレワークやワーケーション\*など、新たなワークスタイル、ライフスタイルを活用し、南部圏域への人の流れを創出することが求められています。
- 農林水産業における担い手の減少が続く中、持続可能な生産体制を維持し農山漁村の活性化を図るため、南部圏域の魅力を最大限活用し、若者を中心とする多様な担い手を確保・育成していくとともに、新たな就農システムの構築や生産体制の強化が必要です。（再掲）

【成果指標】

南部圏域への県外からの移住者数  
(出典：徳島県調べ)

2022年度実績

376人

2028年度目標

500人

指標の説明

南部圏域5市町での転入者に対するアンケート調査により、移住と判定された県外からの転入者数。移住者数の増加は、地域コミュニティを維持し、活力を与えることを目的とした移住施策の効果を示すものとして、この指標を選定。

設定の考え方/得られる成果

コロナ禍により減少した移住者数を回復させ、さらに過去の最大人数469人を上回る500人を目指し、目標を設定。この目標達成により、南部圏域における「持続可能で活力ある社会」に寄与。

【再掲】南部圏域の農林水産業の新規就業者数（累計）  
(出典：徳島県調べ)

2022年度実績

195人

2028年度目標

430人

指標の説明

「新規就農者数」「林業事業体における新規就業者雇用」「新規漁業就業者」の合計。産地の維持強化を表す指標の一つとして設定（2018年度からの累計）

設定の考え方/得られる成果

現在の生産力を維持するためには、担い手確保が不可欠であることから、現在と同水準を目指し、目標を設定。この目標達成により、農林水産業の維持・発展や地域の活性化に寄与（2018年度からの累計）



【 改正案 】

魅力度UP

戦略6

「新しい人の流れ」の創出

【目指すべき将来の姿】

- 南部圏域の若者やゆかりのある方々が、この地域に誇りを持ち、「ずっと居りたい」「いつも帰りたい」「みんな行きたい」と思える地域づくりが実現しています。
- 地域に愛着を持つ若者に加え、移住者などの力も相まって、伝統ある歴史・文化が維持・継承され、心豊かで活力ある地域が実現しています。
- 若者を中心とした「元気な農林漁業者」や「農業支援サービス事業体」など、多様な担い手により持続性のある農林水産業経営が行われ、農山漁村地域が活気に満ちあふれています。（再掲）

【現状と課題】

- 人口減少や過疎高齢化の進行により、地域のコミュニティの衰退や、伝統文化、祭礼などの行事の継承が困難となりつつあります。
- テレワークやワーケーション\*など、新たなワークスタイル、ライフスタイルを活用し、南部圏域への人の流れを創出することが求められています。
- 農林水産業における担い手の減少が続く中、持続可能な生産体制を維持し農山漁村の活性化を図るため、南部圏域の魅力を最大限活用し、若者を中心とする多様な担い手を確保・育成していくとともに、新たな就農システムの構築や生産体制の強化が必要です。（再掲）

【成果指標】

南部圏域への県外からの移住者数  
(出典：徳島県調べ)

2022年度実績

376人

2028年度目標

500人

指標の説明

南部圏域5市町での転入者に対するアンケート調査により、移住と判定された県外からの転入者数。移住者数の増加は、地域コミュニティを維持し、活力を与えることを目的とした移住施策の効果を示すものとして、この指標を選定。

設定の考え方/得られる成果

コロナ禍により減少した移住者数を回復させ、さらに過去の最大人数469人を上回る500人を目指し、目標を設定。この目標達成により、南部圏域における「持続可能で活力ある社会」に寄与。

【再掲】南部圏域の農林水産業の新規就業者数（累計）  
(出典：徳島県調べ)

2022年度実績

195人

2028年度目標

430人

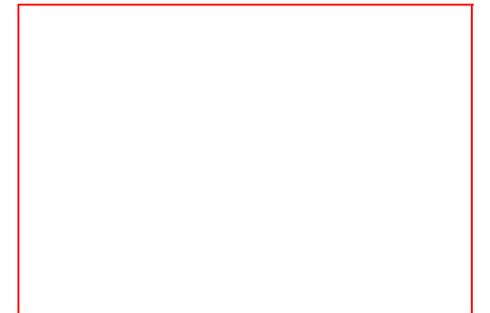
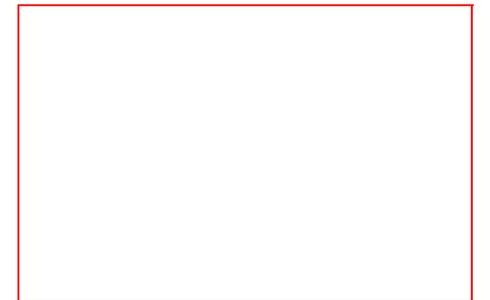
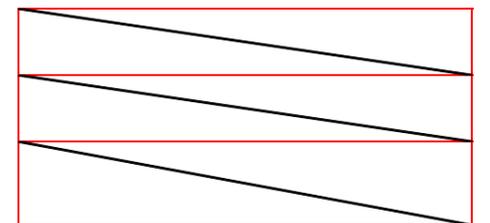
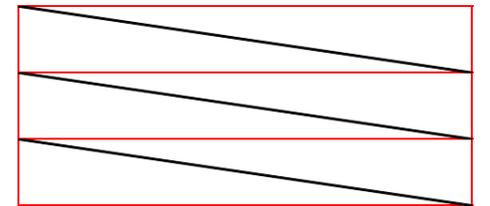
指標の説明

「新規就農者数」「林業事業体における新規就業者雇用」「新規漁業就業者」の合計。産地の維持強化を表す指標の一つとして設定（2018年度からの累計）

設定の考え方/得られる成果

現在の生産力を維持するためには、担い手確保が不可欠であることから、現在と同水準を目指し、目標を設定。この目標達成により、農林水産業の維持・発展や地域の活性化に寄与（2018年度からの累計）

見直しの理由や概要



【施策の方向性】

**(1) 「ひと」と「しごと」の好循環**

- 市町及び高等教育機関と連携し、大学生と地域との交流による課題解決や南部圏域にゆかりのある「徳島ファン」の創出を図ります。
- I・Jターンを促進するため、市町と連携し、南部圏域の魅力や移住関連情報（しごと、すまい、支援制度など）や地域が求める人材情報を戦略的に発信します。
- 若者定住やUターンを促進するため、継続的に地域で暮らす若者の意見交換を行い、多様な南部圏域の魅力発信するとともに、シビックプライド（地域への誇り、愛着、貢献意識）を醸成します。
- 市町と連携し、サテライトオフィスの誘致に取り組むとともに、地域を含めた一体的な支援による定着や働き手の確保を進め、南部圏域ならではの新たな働き方の充実により、関係人口の創出を図ります。
- 移住やサテライトオフィスの誘致を促進するため、空き家等を活用した住居やオフィス等の確保に向け、全国の先進事例や補助金の情報提供など、市町の取組を支援します。
- 圏域にゆかりある人々の地域固有の行事等への参加を促進することにより、関係者と一体となって地域を盛り上げ、文化や祭礼等の伝統行事の継承につなげていきます。

**(2) 担い手の育成と確保（再掲）**

- 海部地域では、「就農」や「農ある暮らし」を志向する若者等の受け皿となる「農業支援サービス事業体」の更なる育成を図り、新規就農をはじめ、副業や半農半X、定年就農等、多様な担い手を確保、育成する「海部型移住就農システム」を推進します。
- 阿南・那賀地域では、産地が一体となり産地再生を目指す「農の里づくり」を進め、若者を中心とした「元気な農業者」の育成を図ります。
- 「林業アカデミー」や「漁業アカデミー」と連携し、小中高生や大学生を対象とした就業体験やインターンシップの受け入れ等により、将来の地域林業・漁業を支える人づくり、即戦力となる人材育成に取り組めます。



移住フェアでの相談



南部ならではのワーケーション※



農林水産業の担い手の確保と育成

【施策の方向性】

**(1) 「ひと」と「しごと」の好循環**

- 市町及び高等教育機関と連携し、**高校生**や大学生と地域との交流による課題解決や南部圏域にゆかりのある「徳島ファン」の創出を図ります。
- I・Jターンを促進するため、市町と連携し、南部圏域の魅力や移住関連情報（しごと、すまい、支援制度など）や地域が求める人材情報を戦略的に発信します。
- 若者定住やUターンを促進するため、継続的に地域で暮らす若者の意見交換を行い、多様な南部圏域の魅力発信するとともに、シビックプライド（地域への誇り、愛着、貢献意識）を醸成します。
- 市町と連携し、サテライトオフィスの誘致に取り組むとともに、地域を含めた一体的な支援による定着や働き手の確保を進め、南部圏域ならではの新たな働き方の充実により、関係人口の創出を図ります。
- 移住やサテライトオフィスの誘致を促進するため、空き家等を活用した住居やオフィス等の確保に向け、全国の先進事例や補助金の情報提供など、市町の取組を支援します。
- 圏域にゆかりある人々の地域固有の行事等への参加を促進することにより、関係者と一体となって地域を盛り上げ、文化や祭礼等の伝統行事の継承につなげていきます。

**(2) 担い手の育成と確保（再掲）**

- 木頭ゆず、阿波尾鶏をはじめとした南部圏域の特色ある農林水産物の魅力発信を強化し、輸出など販路拡大を図るとともに、**地球温暖化に対応した水稻再生二期作\*技術や主要品目における高温対策を導入・実証し、水稻の生産拡大や果樹等の高品質安定生産により、農家収益の向上を図ります。**
- 阿南・那賀地域では、産地が一体となり産地再生を目指す「農の里づくり」を進め、若者を中心とした「元気な農業者」の育成を図ります。
- 「林業アカデミー」や「漁業アカデミー」と連携し、小中高生や大学生を対象とした就業体験やインターンシップの受け入れ等により、将来の地域林業・漁業を支える人づくり、即戦力となる人材育成に取り組めます。



移住フェアでの相談



みなみ阿波空き家問題解決セミナー



農林水産業の担い手の確保と育成

見直しの理由や概要

中山委員の意見を受けて、「高校生」を追加

R8当初予算及び政策総合会議田中委員の発言を受けて、新たに気候変動対策の取り組みを追加

## 用語解説

文中において記載されている単語の右肩に「※」が付いている用語の解説

### 【現行】

#### あ行

#### か行

##### 海部の魚

海部郡の全漁業協同組合、3町、県で設立した「とくしま海部水産物品質確立協議会」が認定した特定規格の6魚種（アオリイカ、アカムツ、トコブシ、タチウオ、ウツボ、キダイ）。差別化により価格向上を図っている。

#### さ行

### 【改正案】

#### あ行

##### ウェルネスツーリズム

ウェルネス（積極的に心身の健康増進を図ろうとする行動）とツーリズム（観光活動）とを組み合わせた造語で、旅先での体験活動や食、交流等を通して心や身体のバランスを整え、リフレッシュを行う観光スタイル。

#### か行

##### 海部の魚

海部郡の全漁業協同組合、3町、県で設立した「とくしま海部水産物品質確立協議会」が認定した特定規格の7魚種（アオリイカ、アカムツ、トコブシ、タチウオ、ウツボ、キダイ、**イセエビ**）。差別化により価格向上を図っている。

#### さ行

##### 水稻再生二期作

収穫後の稲株から再生する芽（ひこばえ）を育て、二度目の収穫を行う栽培法。田植えを一度しか行わないため、低コスト・省力化が可能。温暖化にも対応した収益向上技術として実証・普及を進めている。